

合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

事例の概要

中学校2年生の生徒Aは、肢体不自由特別支援学級に在籍している。小学校2年生の時に交通事故に遭い、機能障害が残った。左半身麻痺と高次脳機能障害の記憶障害、注意障害、遂行機能障害、失調障害があり、感情のコントロールにも問題がある。

生徒Aは、学習意欲が高く大変真面目に授業に取り組んでいる。また、自分で決めたことはやり通す根気強さを持っている。ただ、頑張りすぎて脳が疲労してしまうことがあり、課題や作業は質や量を配慮する必要がある。手が震えるため、筆記は介助者による代筆が必要な場合がある。また、自分で書字するためには、拡大した枠が必要である。

生徒Aは、手足にも麻痺があり体が硬いので、毎日リハビリを行う必要がある。定期的にB病院で行っている柔軟体操を学校でも行っている。

一人で歩行できるが、物音などに気を取られバランスを崩すことがあるので、特に階段の上り下りは見守りが必要である。一人で移動するときはエレベーターが必要である。

生徒Aについて、「身体的な課題」と「学習上の課題」の両面で合理的配慮を行った例である。

1 対象生徒の障害種

肢体不自由

2 障害の程度

非該当(肢体不自由)

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

中学校・特別支援学級

4 学年

中2

5 対象生徒の実態

生徒Aは、小学校2年生の時の交通事故により、左半身麻痺と高次脳機能障害の記憶障害、注意障害、遂行機能障害、失調障害があり、感情のコントロールにも課題がある。てんかん発作があるので、薬を服用している。右手も力を入れると震えがあるため、左手で文字を書いているが、時間がかかり、枠の大きさによっては収まる文字を書くのは難しい。また、自分の考えを言葉で表現することに時間がかかり、話すスピードもゆっくりである。階段は手すりを使いながら上り下りできるが、見守りが必要である。また、体育の時間等、運動しているときは、転倒の危険があるので、ヘッドギアを装着している。学力は高く、学習には意欲的に取り組むことができる。特に数学が得意で、四則計算のスピードが速い。、中学校1年時は、ほとんどの教科の授業を交流学級で受けていた。しかし、学習や作業に取り組むことで、脳の疲労が激しいことがあっても本人の自覚がなく、激しい頭痛に襲われることもある。無理をしすぎる傾向にあるため、2年生より特別支援学級でゆっくりのペースで学習している。卒業後は、C特別支援学校への進学を希望している。

6 対象幼児児童生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

合理的配慮については、保護者から学習面及び生活面での支援に係る申し出があった。内容は以下のとおりである。

技能教科は、別のカリキュラムで補助者をつけてほしい。

手が震えることで、字を書くことに時間がかかるので、補助者に代筆をしてほしい。

1年次までは、交流学級で授業を受けることを希望していたが、情報量が増え、学習の定着が追いつかないため脳の疲労が激しくなっており、2年次より特別支援学級で本人のペースに合わせた学習指導をしてほしい。

自立活動では、運動機能回復に向けてのリハビリをしてほしい。

以上の申し出について、B病院・発達障害者支援センター・D特別支援学校と連携しながら、E町教育支援委員会ケース検討会の意見を参考にして、校内教育支援委員会で話し合いを進め合意に至った。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎④ 教材の確保

E町では、補助教材費を予算化し、生徒の障害に応じた補助的な教材の確保ができるようにしている。例えば、バランスボードや、囲碁、園芸セット等をそろえている。また、教科書については、検定教科書に対応した拡大教科書の提供ができるようにしている。

基礎⑤ 施設・設備の整備

E町では10年前に、河川改修に伴う当該学校校舎の移転を行った。よって、施設は比較的バリアフリー化が進んでいる。また、特別支援学級は1階に配置されており、保健室および職員室も同じ階にあるため対応がしやすい。エレベーターが完備されており、Aさんが利用しやすい。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

Aさんは、体が硬く運動にも制限があった。保護者からの申し出を受け、B病院のリハビリに教師が参加し、病院で行っている柔軟体操を自立活動や休憩時間に実践している。

着替えや準備等に時間がかかるので、時間に余裕を持って次への行動に移らせている。

一度に2つのことを考えたり行ったりすることは難しいので、指示を明確に一度だけするようにしている。

記憶障害のため、会話の記憶が抜けてしまうことがあるので、連絡は言葉だけでなく連絡帳など文字に残して振り返らせる。また、自分の持ち物を置いた場所を忘れてしまったり、視野が狭いことで探せなかったりすることがあるので、自分の特性を知り注意して生活するようにさせている。本棚やロッカーを使って置く場所を決め、視覚的にわかるように整理整頓を行っている。

自己有用感を高めるために、校内で周りの人の役に立つ取組をAさん自身に考えさせ、毎朝担任とともに玄関の清掃を続けている。

合理①-1-2 学習内容の変更・調整

課題が多いとAさんの脳への負担が大きくなるため、Aさんの理解の程度に合わせて学習内容を精選している。書く場面では、拡大コピーしたプリントを活用している。

発音が不明瞭であったり、自分の思いを音声で表現しにくかったりするため、音読の時間を確保している。

体育科では、友達と関わる時間を大切にしているため、チームでゲームをする場面では、参加する時間を制限したり、役割を少なくするなどして、できるだけ授業に参加できるようにしている。ただし、同じメニューができない場合は、柔軟体操をしたり、ストレッチをしたりしている。

家庭学習の課題は、手のリハビリを兼ねて、漢字学習、日誌に継続的に取り組んでいる。

音楽科のリコーダー演奏は難しいので、鍵盤ハーモニカに換えて演奏している。

数学は本人が得意としているので、中学2年の学習内容を本人のペースに合わせて個別指導している。

自立活動では、Aさんの負担にならない程度の手の動きを重視した作業等を取り入れている。

9 成果と課題

柔軟体操を毎日行うことで、体の可動域も広がり、運動できる幅も広がった。本年度の体育大会では、クラス対抗リレーで50mを走ることができた。

毎日の課題に取り組むことにより、枠からはみ出さずに文字を書けるようになった。

自分のペースで学習することで、特に得意な数学では、新しい内容を進んで学習できている。家庭学習も量を軽減することで、保護者への負担が減り、特に母親の心の安定につながった。家でのお手伝いやリハビリのために、母親と犬の散歩をする時間的余裕ができた。家では、食事の用意をしたり、洗濯物をたたんだり、進路に向けて自分でできることを増やしている。

友人と友好的な関係を築けており、交流学級の生徒とも仲良く生活できている。また、いろんな教師にも積極的に話しかけ、自分の思いを伝えることができている。

C特別支援学校への進学を希望しており、寮生活を送るために必要な生活の技能を身につけていくことが今後の課題である。保護者と丁寧に対話しながら、さらなる合理的配慮の提供につなげたい。